

# 留学案内

## STUDY-ABROAD INFORMATION



### 海外の大学と交換留学協定を結んでいます。

国際文化学研究所は海外の大学と協定を結び、学生の交換を行っています。協定による留学は、私費留学とは異なり、以下のようなメリットがあります。

- (1) 授業料：留学先大学の授業料が免除されます（ただし、神戸大学に規定の授業料を支払わなければなりません）。
- (2) 単位互換：留学先で取得した授業の単位について、審査を経て、本研究所の単位として認定される制度があります。
- (3) 修業年限：留学中も神戸大学に在籍中と見なされるので、前期課程の場合は1年間（または半年）の留学期間を含めて最短2年で、後期課程の場合は最短3年で修了することができます。

(1)の留学先の授業料免除は、当該国の大学制度や物価によりさまざまで、大きなメリットになる場合とならない場合がありますが、一般に欧米の大学は留学生から高額の授業料を徴収しており、授業料が免除されることは大きなメリットといえます。(2)及び(3)は協定による留学ならではの利点です。奨学金は日本学生支援機構、神戸大学独自の渡航費と滞在費の一部を補助する奨学金があります。

派遣学生の選考は、次の4点を基準に国際交流委員会が筆記試験及び面接で行っています。(1) 研究目的・計画 (2) 言語能力 (3) 適性 (4) 文化交流。なお、英語圏に留学する場合は要求されているTOEFL又はIELTSのスコアをクリアしなければなりません。

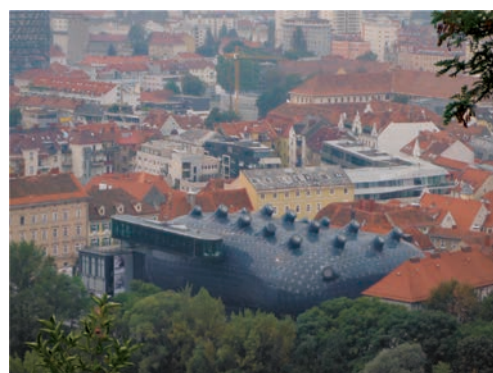


### 西原 三貴さん

(博士前期課程感性コミュニケーションコース2年)  
神戸大学国際人間科学部卒業  
研究テーマ：言語習得

「ナポリを見てから死ぬ」—この言葉につられ、イタリア語もままならない中、ナポリ東洋大学への1年の交換留学に応募しました。ナポリの良い点は、半ば勢いだけで訪れたこんな私をも包み込む懐の広さがあるところです。カオスと形容され、ともしれば敬遠されがちなナポリ。道端にトイレの便座が落ちているなど、確かにカオスなことも起きますが、それは同

時に、街全体やそこに住む人々の柔軟性と寛容さを象徴しています。これは、実際にこの土地で生活したからこそ感じられたことです。加えて、学問的な面でも刺激ある日々を送っています。ナポリ東洋大学はその名の通り、東洋について学ぶ大学で、殊日本に関して素晴らしい教育環境が整っています。そのため、南イタリアを中心に、様々な土地から日本に興味のある優秀な学生達が集っています。意欲ある親切的なイタリアの学生らと毎日話す中で、ありがたいことに私のイタリア語も上達しました。また、他の国から来た留学生と話す機会も多く、英語に関しても以前よりスムーズに使用できるようになりました。そして、年齢も生まれも異なるフレンドリーな人達と切磋琢磨する中で、語学面だけでなく、一般的な教養や専門分野に関する知見も広がりました。実際にこの土地で生活し、ナポリ東洋大学に留学したからこそ得られる貴重な経験をいただいています。



# ダブルディグリー・プログラム

## DOUBLE DEGREE PROGRAM

本研究科には、ダブルディグリー・プログラムがあります。これは本研究科に在学中の大学院生が留学先研究科に最低1年間留学し、所定の単位を修得して修士論文を提出することによって、最短2年間で修士の学位を本研究科及び留学先研究科において取得できるプログラムです。

それぞれの研究科で取得した単位の一部は互換され、カリキュラムも連携しています。授業料等については、本研究科の学生は神戸大学に支払うだけで、留学先研究科では免除されます。

### ■ 派遣大学

ナポリ東洋大学（イタリア）、パリ大学（旧：パリ・デイドロ大学）、ルーヴェン大学（ベルギー）、ハンブルク大学（ドイツ）、フランス国立東洋言語文化学院（INALCO）

### ■ 派遣人数

各大学1～2名

### ■ 出願資格

- (1) 国際文化学専攻前期課程に所属していること
- (2) 派遣大学の語学要件等を満たしていること
- (3) 指導教員より推薦を受けられる者

### ■ 派遣学生の選考は、次の3点を基準に書類および面接で行います。

- (1) 研究計画、(2) 語学力、(3) 適性

### ■ 受入学生の研究テーマ：「現代の日本における《メイド・イン・イタリア》」

「Japan's cultural diplomacy in France」など。

### ■ 派遣学生の研究テーマ：「EUの社会的通商政策の形成過程」

「ヨーロッパの高等教育改革と各国のマイノリティへの対応」など。



### 松本 龍之介さん

(2023年度博士前期課程修了)

研究テーマ：「EU域内自由移動の階層性に基づく安全保障化—フランスにおける中東欧諸国からの人の移動の過程追跡—」

フランス東洋言語文化学院 (INALCO) は、非常に多様な言語を学ぶことができる国際性豊かな大学です。また、国際関係学部があり、多様な地域の国際関係を政治学、社会学の視点から考えることを特徴としています。私がこの大学を選んだ理由は主に二つあります。まず、一つ目は、自分の研究を深めることが可能であると考えたためです。特に「中東欧諸国」に関連した国際関係、仏とそれらの国々との関与など、日本ではなかなか得ることのできない知見を実際に得ることができたのは非常に有益なものとなりました。また、アジア地域や日本に関連する授業も多くあり、より客観的な視点から日本の現状やそれを取り巻く国際関係を見ることができ、これまで以上に「日本」に関して考える機会が増えました。二つ目の理由は、自分がどれだけ通用するかを試してみたいと思ったことです。私は学部生時代、フランスに協定留学した経験があります。その時、学生自身の将来に対する目標や学習に対する姿勢が、非常に明確で確立されたものであると感じました。同時に、彼らと同じ土俵で競い、自分自身を高めたいという気持ちも生まれました。今回のプログラムで実際に彼らと共に講義や議論を行うことは、非常にハードルの高いものでした。それでも、自分なりに授業の理解を深める工夫や、現地の学生からの助けを貰ったことで、何とか食らいつくることができたと思います。実際に、プレゼン発表などに対して教授や周りの学生からポジティブなコメントを頂けたことは、自分自身にとって大きな自信となりました。また、現地での修士論文の口頭試問においては、先生方から内容に関して多くの有意義なコメントを頂き、その後の研究活動に自信を持つことができました。

ダブルディグリープログラムは、現地生と同じカリキュラムの中で取り組むことができる素晴らしい機会です。様々な困難はありましたが、自主性が重んじられるフランスという国で、研究活動に没頭し、多様な知見を得ることができたことは、人生において、かけがえのない唯一無二の経験となったと思います。

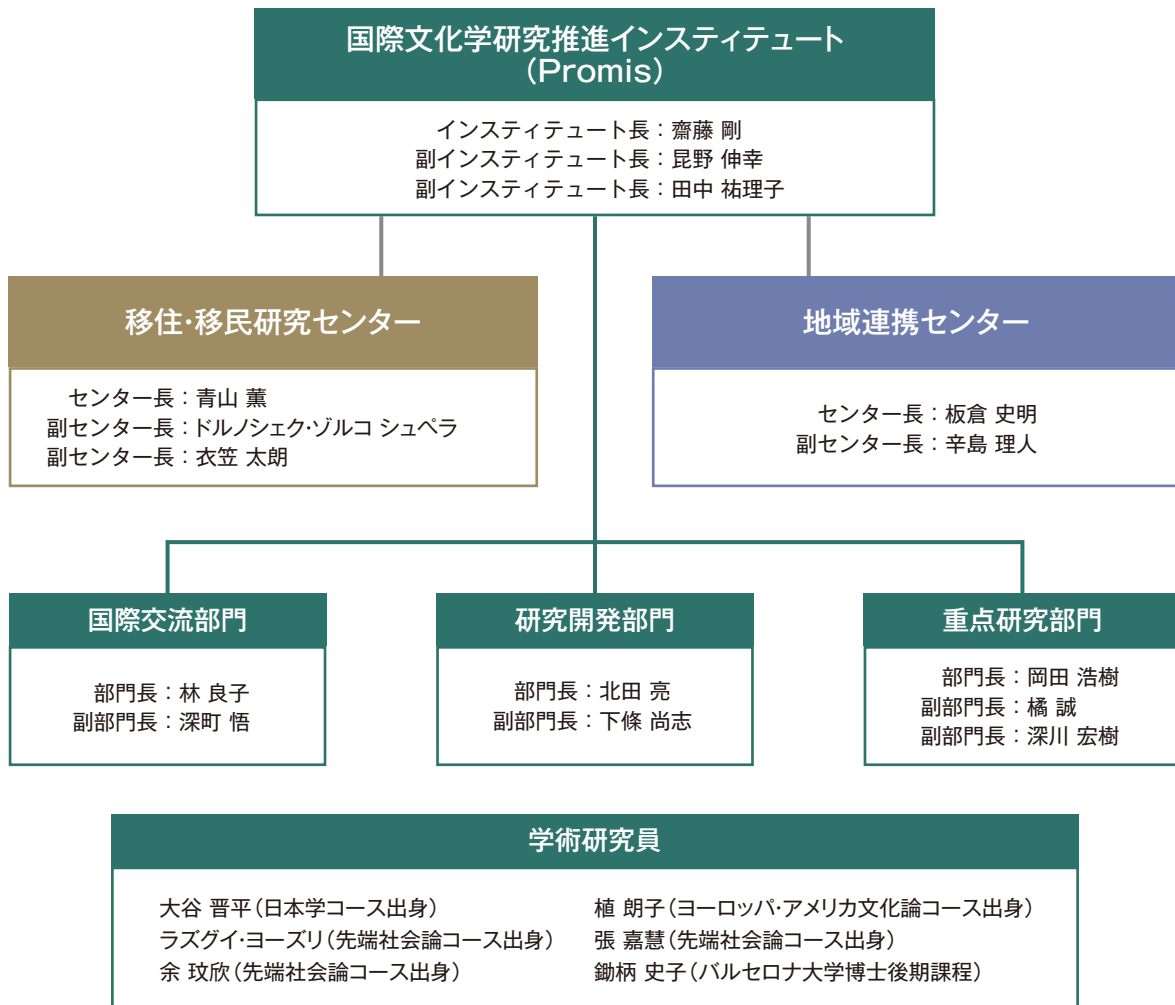
研究科協定校一覧			
ロンドン (SOAS)	イギリス	全学協定	
エセックス		全学協定	
バーミンガム		全学協定	
マンチェスター			
ケント		全学協定	
ユタ州立	アメリカ	全学協定	
ニューヨーク市立クイーンズカレッジ		全学協定	
ジョージア工科		全学協定	
テネシー		全学協定	
ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ	カナダ	全学協定	
オタワ		全学協定	
ブラジリア	ブラジル		
ハンブルク	ドイツ	DD プログラムあり	
ベルリン自由			
ライプツィヒ			
ハレ・ヴィッテンベルク			
トリアー		全学協定	
キール		全学協定	
ダルムシュタット工科		全学協定	
ミュンヘン工科		全学協定	
グラーツ		オーストリア	全学協定
ライデン		オランダ	全学協定
ルーヴェン	ベルギー	DD プログラムあり	
ルーヴァン・カトリック サンルイ			
ブリュッセル (旧：サンルイ)			
ヘント			
ブリュッセル自由 (仏語系)			
ブリュッセル自由 (蘭語系)	全学協定		
グルノーブル・アルプ	フランス		
レンヌ (旧：レンヌ第1)			
パリ第2		全学協定	
パリ (旧：パリ第7)		全学協定	
パリ・ナンテール (旧：パリ第10)		DD プログラムあり	
フランス国立東洋言語文化学院 (INALCO)		全学協定	
リール		DD プログラムあり	
エクス＝マルセイユ		全学協定	
ポロニーヤ		全学協定	
ポロニーヤ (フォルリ)			
ヴェネツィア	全学協定		
ナポリ東洋	DD プログラムあり		
バーゼル	スイス	全学協定	
バルセロナ		全学協定	
バルセロナ自治	スペイン		
ボンベウ・ファブラ		全学協定	
ベルゲン	ノルウェー		
ヘルシンキ	フィンランド		
オーフス	デンマーク		
コペンハーゲン			
カレル	チェコ	全学協定	
ワルシャワ	ポーランド		
ニコラウス・コペルニクス		全学協定	
ヤゲウォ		全学協定	
コメニウス		全学協定	
エトヴェシュ・ロラント		全学協定	
バベシュ・ボヨイ	ルーマニア	Erasmus+ プログラム	
ソフィア	ブルガリア	全学協定	
サンクトペテルブルク	ロシア	全学協定	
ウラル連邦		全学協定	
ウーロンゴン	オーストラリア	全学協定	
西オーストラリア		全学協定	
ニューサウスウェールズ		全学協定	
カーティン			
武漢		全学協定	
上海交通	全学協定		
清華	全学協定		
南京	全学協定		
華東師範	中国		
中国人民		全学協定	
上海			
浙江			
香港			
北京外国語			
中央民族			
国立台湾		全学協定	
国立政治		全学協定	
国立成功		全学協定	
ソウル国立	全学協定		
済州	韓国		
中央			
国立釜山			
モンゴル国立	モンゴル	全学協定	
ベトナム国家 (ホーチミン)	ベトナム		
アテネオ・デ・マニラ	フィリピン		
タマサート	タイ		
ガジャ・マダ	インドネシア		
南洋理工	シンガポール	全学協定	

# 国際文化学研究推進インスティテュート

RESEARCH INSTITUTE FOR PROMOTING INTERCULTURAL STUDIES (Promis)

2022年4月から、国際文化学研究推進センターは国際文化学研究推進インスティテュート(Research Institute for Promoting Intercultural Studies, Promis)に発展的に改組し、そのもとに移住・移民研究センターと地域連携センターを設置するとともに、研究開発部門、国際交流部門、重点研究部門の3基幹部門の体制になりました。この新しい統合的組織のもとで、国際文化学研究推進インスティテュートは国際文化学研究科の研究プラットフォームとして、さらなる取り組みを進めています。

## 国際文化学研究推進インスティテュート(Promis) 組織図



名前 原田 豪さん

所属コース 2019年度文化相関専攻国際関係・比較政治論コース博士後期課程修了

研究テーマ 「欧州統合過程における制度要因作用の分析」

2019年度よりPromisに協力研究員・学術研究員として在籍。現在、摂南大学国際学部(特任講師)。

博士後期課程に在籍する全ての人は博士論文の完成を目指し、研究に集中することになります。ですが、博士課程修了後となると、教育、そしてあらゆる組織運営に付き物の実務をこなすことが通常求められます。言い換えれば、学位取得後も研究活動のみで生計を立てる人は稀です。むしろ、研究活動継続のためにも、教育・実務などを行うことが要求されます。

教育に関しては非常勤講師として経験を積むことが可能ですが、実務に関与する機会は多くありません。ですが、Promisの活動(HP管理・作成、セミナー運営や年報編集など)に携わることは、その数少ない機会の1つです。同時に、研究・教育に関する同僚や教員からの助言を得る機会ともなります。このように、学位取得後の新たな課題に取り組む際の活動基盤とできるのがPromisです。

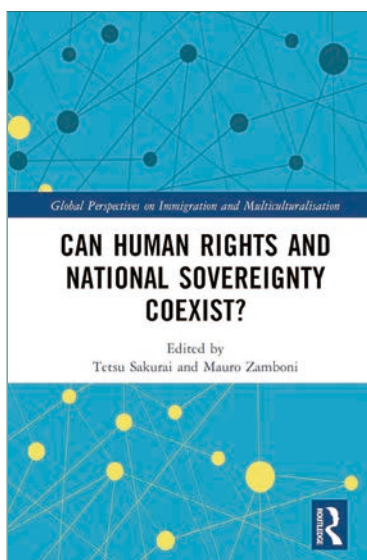
研究に関しても研究プロジェクト助成制度などがあり、アカデミックキャリアにおける全般的なサポートを期待できます。このようなPromisの一員となれたことを幸運に思いますし、これからもより多くの人がPromisに関わることを願っています。

## 移住・移民研究センター

2023年度、移住・移民研究センターはドルノシエク・ゾルコ・シュベラ特命講師をPromis専属の研究者として迎え、センターの英語名をKobe Migration Research Center(KoMiReC)に改称して新たなスタートを切りました。移住・移民に関する新たなセミナーシリーズも開始。2023年10月27日には初回のキックオフセミナーであるEmbarking on Interdisciplinary Migration Researchを開催しました。フランス国立科学研究センターならびにパリ政治学院のエレン・ルバイ教授を連携フェローに委嘱。2024年2月9日にはセミナー「移民・セックスワーク・人身取引——二極化された研究分野における再帰性と方法論」を実施しました。



移住移民のワークショップの様子



2023年3月には本研究科の桜井徹教授がストックホルム大学のマウロ・ザンボニ教授とともに移民研究の成果を英語の編著として刊行しました

## 地域連携センター

国際的な観光地域づくりに関する研究を近年の重点課題としている地域連携センターは、インテックス大阪で開催されたツーリズムEXPOジャパン2023にSDGs推進室と連携し、神戸大学の主管部局としてブース出展を実施。一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会ならびに関西エアポート株式会社と会場内イベントを企画しました。2022年度の姫路市との地域連携協定(部局協定)締結に引き続き、2023年度には北海道ニセコ町との包括的な地域連携協定の締結ならびに一般社団法人サステナブル・コーディネーター協会との産学連携協定の締結を進め、県内外の自治体や諸団体と協働して取組みを進めています。2024年3月23日~24日には、国際文化学研究科(Promis地域連携センター)、国連世界観光機関(UN Tourism)駐日事務所、独立行政法人国際協力

機構(JICA)、南丹市美山観光まちづくり協会の4者共催による「次世代観光リーダー育成に向けたワークショップ」を美山で開催しました。

## 研究開発部門

研究開発部門では、国際文化学研究科所属の教員、あるいはPromis学術研究員や協力研究員が中心となって企画するセミナーの開催や広報をサポートするほか、Promisが公募する研究プロジェクト等の選定、修士論文・修了研究レポートの収蔵管理をおこなっています。また、神戸大学学術研究推進室(URA)と連携して、科学研究費助成事業をはじめとする外部資金申請のための支援をしています。一例として、2021年度の研究プロジェクト(移民研究プロジェクトを含む)は以下の通りです(肩書は2021年度現在)。

- 新しい「神話的物語」の創生と日本ポップカルチャー(代表:植朗子協力研究員)
- 多文化共生における信頼感に関する国際比較研究—日中比較研究を中心に(代表:林萍萍協力研究員)
- 近現代ドイツにおける地理的「中間Mitte」の思想史:「中間民族Mittelvolk」自己像の生成と類型(代表:野上俊彦協力研究員)
- 日本人学習者の中国語第三声習得に関する研究(代表:呉琪協力研究員)
- 「モノ」のエスノグラフィー:アート、伝承文学、エコロジーにおけるポスト・ポストヒューマンイズムの探求(代表:小林瑠音学術研究員)

## 国際交流部門

国際交流部門では、国際文化学研究科と緊密に連携をとりつつ、海外の研究機関と学術協定締結をおこなっています。これまでに、メキシコ社会人類学高等研究所(メキシコ)、マヒドン大学人口社会研究所(タイ)、アムステルダム自由大学社会学部/社会学研究科(オランダ)と協定を締結し、国際ワークショップ・シンポジウムの開催や研究者間交流を進めています。

## 重点研究部門

重点研究部門では2022年度から、大学共同利用機関法人人間文化研究機構のネットワーク型基幹研究プロジェクトである「グローバル地域研究推進事業」を推進しています。

## 学術研究員

各年度、国際文化学研究科博士課程後期課程で学位を取得した者等のなかから若干名を学術研究員に採用しています。学術研究員には研究者番号が付与され、Promisにて各種の研究プロジェクト等に従事するとともに、事務補佐員とともにPromis事務局を構成し、国際文化学研究推進インスティテュートの管理運営を担っています。

## 協力研究員

各年度、国際文化学研究科博士課程後期課程で学位を取得した者を協力研究員に委嘱しています。協力研究員には研究者番号が付与されるほか、Promisが公募する研究プロジェクト等に研究代表者として応募することができます。海外大学院に在籍する若手研究者がPromisで研究に従事するための客員協力研究員の制度もあります。

## 連携フェロー

国際文化学研究科ないしは国際人間科学部に過去に在籍した教員、あるいは国際文化学研究科博士課程後期課程で学位を取得し、他大学にて専任教員の職を得た者等を中心に連携フェローに委嘱しています。連携フェローは、Promisが推進する各種の研究プロジェクトの研究分担者や研究協力者として、Promisの国内外の研究ネットワークの一翼を担っています。